

授業科目名： 国際ジャーナリズム論	教員の免許状取得の ための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐々木 伸 担当形態 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 英語) (高等学校 英語)		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項「異文化理解」		
「学位授与の方針」との関係 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係の専門的知識を生かし、狭い専門領域を超えて統合しようとする意志を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ			
<p>(1) フェイクニュースが氾濫するポストトゥルース時代の現状とその意味をきちんと理解できる。</p> <p>(2) グローバル化した複雑な国際社会・情勢を把握し、ニュースの背景や政治的問題点などを説明できる。</p> <p>(3) インターネットやSNS全盛時代の激変したメディア環境の実態を理解し、ニュースの読み取り方とフェイクニュースにだまされないメディアリテラシーを養う。</p> <p>(4) トランプ前米大統領とメディアとの激しい対立の経緯と現状を概説できる。</p> <p>(5) 世界の独裁者が報道の自由を抑圧している実態を知る。</p> <p>(6) ジャーナリズムとメディアの基本的役割と社会的な責任を説明できる。</p> <p>(7) 報道と権力の関係を考察し、調査報道の重要性を理解する。</p> <p>(8) ジャーナリズムの学習を通して、公民として国際社会に主体的かつ能動的に参画していく知識や思考力、判断力、表現力を向上させる。</p>			
授業の概要			
<p>インターネットの発達でスマホ・SNSが全盛の中、「ポストトゥルース」時代といわれるようにフェイクニュース(虚報)が氾濫し、何が真実で、何がうそなのか、何が実際に起きているのか、起きていないのか。激変するメディア環境の中、世界の不確実性と不透明感は深まるばかりである。</p> <p>こうした時代にあっては、「真実・独立・公正」の3原則を掲げるジャーナリズム・メディアの役割とその責任は一段と高まっていると言えるだろう。ジャーナリズム・メディアが社会の羅針盤となり、ゲートキーパー(門番)の役割を果たさなければ、課せられた機能の一つである「権力の監視」もままならなくなる。結果として、社会や国民が多大な不利益を被ることになりかねない。今こそ、ジャーナリズムとその精神を具現化するメディアの存在そのものが国際的に問われていると言っても過言ではない。</p> <p>本講では、報道の自由のモデルとなってきた米国のメディアとトランプ前大統領との対立、「メディア戦争」の実態を研究するとともに、世界の独裁者が批判的なメディアを弾圧している実情についても考察する。また、私たちが公民として国際社会にどう能動的に関わっていくのか、フェイクニュースにだまされないようメディアリテラシーを高めていくにはどうしたらいいのか、共生社会を形成する上で、どのように主体的に取り組むべきか、といった問題につ</p>			

いても考える。

#### 授業計画

- 第1回：どんな時代に生きているのか
- 第2回：ポストトゥルースとフェイクニュース
- 第3回：SNSとスマホの拡散
- 第4回：新聞の衰退
- 第5回：反グローバリズムの2つの出来事
- 第6回：トランプのメディア戦争と2020年大統領選の敗北
- 第7回：独裁者と報道の自由
- 第8回：ジャーナリズムの役割と社会的責任
- 第9回：報道の原則
- 第10回：メディアと権力—調査報道の力
- 第11回：実名報道と匿名報道
- 第12回：情報源の明示と秘匿
- 第13回：誤報と捏造
- 第14回：戦争・紛争報道
- 第15回：日米の報道比較

#### 科目修得試験

#### スクーリングでの学修内容

主に授業計画に記載したテーマについて横断的に学ぶ。テキストについては、ダウンロード教科書「ジャーナリズムの役割特論」と「ジャーナリズムの倫理と規範」を中心とし、それに基づいて講義する。スクーリング前にテキストを読んでもらうこと。

#### 教科書

- (1) 佐々木 伸 (2021) 『ジャーナリズムの役割特論』(ダウンロード教科書)
- (2) 藤田 博司・我孫子和夫 (2014) 『ジャーナリズムの規範と倫理』新聞通信調査会

#### 参考文献

- (1) 花田 達朗 (2004) 『実践ジャーナリスト養成講座』平凡社
- (2) 藤代 裕之 (2017) 『ネットメディア覇権戦争』光文社新書
- (3) 津田 大介・日比 嘉高 (2017) 『ポスト真実の時代』祥伝社
- (4) 佐々木 伸 (1992) 「ホワイトハウスとメディア」中公新書

#### 学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。